

長野県新産キヨスミギボウシ *Hosta kiyosumiensis* F.Maek. の報告

藤田 淳一 *

(1) はじめに

これまで長野県内で採取し、作成した腊葉標本の中から、「長野県植物誌(清水監修 1997)」及び「CD-ROM 長野県植物誌資料集(普及版)(長野県植物誌資料集作成委員会 2005)」に掲載がなく、県新産となるキヨスミギボウシ *Hosta kiyosumiensis* F.Maek. (クサスギカズラ科) を紹介する。

(2) 標本情報

標本情報を以下に示す(図 1)。

- ・標本番号: NAC175323
- ・採集地: 長野県下伊那郡泰阜村田本
- ・採集日: 2007 年 7 月 30 日
- ・採集者: 藤田淳一
- ・同定者: 近田文弘



図 1 キヨスミギボウシ *Hosta kiyosumiensis* F.Maek.

* 藤田淳一 〒390-0313 長野県松本市岡田下岡田 243-2
サープラス1アルブ 203 号

(3) 生育環境

標本にした個体は、天竜川に合流する支川沿いの湿った岸壁において単生していた。生育していた岩壁は植被率が低く、上層をコナラ、アラカシ等が被覆していた。標本の同定を依頼した近田文弘氏によると本種は、河岸の岩上にも生育するが、本来の生育地は照葉樹林の林床であるという。

(4) 形態的特徴

1) 花序の苞

キヨスミギボウシと他種を識別する最大の特徴は、花序の苞がボート型で、花序の下方から上方に至るまで同形同大である点である(田中 2015)。また、苞に葉緑素の緑色が沈着するのも1つの特徴である(杉本 1982)(図 2)。

類似種のオオバギボウシ *Hosta sieboldiana* (Lodd.) Engl. は、苞が下から上にかけて徐々に小さくなり、開出する傾向がある。同じく類似種のイワギボウシ *Hosta longipes* (Franch. et Sav.) Matsum. は、苞が小さく早落性で、花期には枯れ始める。

2) 葉

Hosta の葉形は変異が大きく、形が安定しないことが多い。NAC175323 では、葉形が卵形で葉脚が円形となっているが、生育の良い個体では葉形が広卵形で葉脚が心形となる。葉の裏は、オオバギボウシと同様に顆粒状の隆起が出る。

(5) 県内の分布

現在のところ、泰阜村の1か所のみでの生育確認である。しかし、これまでオオバギボウシ、イワギボウシと混同されてきた可能性があり、今後下伊那地方において新たに生育が確認される可能性がある。

(6) 謝辞

本報告の作成にあたり、愛知教育大学名誉教授芹沢俊介氏には、愛知みどりの会ハーバリウム(AICH)



図2 キヨスミギボウシ花序(矢印が苞)

においてキヨスミギボウシの標本閲覧の許可を頂き、今回自分の所蔵する *Hosta* 属の見直す契機を与えて頂きました。国立科学博物館名誉研究員近田文弘氏には同定に関して不安の残る標本の同定をして頂きました。長野県環境保全研究所の大塚孝一氏には多くのアドバイスを頂きました。同研究所の石田祐子氏に長野県環境保全研究所ハーバリウム(NAC)への標本の登録作業をして頂きました。心より御礼申し上げます。また、ご遺品の蔵書整理を通じて、近田氏と巡りあう機会を与えてくださった故・清水建美氏にもこの場を借りて御礼申し上げます。

(7) 引用文献

- 長野県植物誌資料集作成委員会(2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集(普及版)、長野県植物誌資料集作成委員会。
清水建美 監修(1997) 長野県植物誌、信濃毎日新聞社。
杉本順一(1982) 日本草本植物総検索誌Ⅱ 単子葉、井上書店。
田中実(2015) クサカギカズラ科、大橋広好 他 編 改訂新版 日本の野生植物Ⅰ ソテツ科~カヤツリグサ科、平凡社。